

「2019年度第2四半期決算」説明会

主な質疑応答

1. 通期営業利益予想の修正について、第1四半期では会社計画に対して100億円ほど悪化していたと理解しているが、第2四半期になってからの悪化は、どういう形で織り込まれているのか？また今回の修正は上期に出たものがメインであり、下期の悪化を織り込んだものではないということか？
 - ・ 上期の会社計画と実績との比較では、およそ150億円の未達だった。第2四半期では新たに、資源・エネルギー・環境事業で50億円の未達となった。この50億円については、利益改善施策で改善しようとしていたが、今期中には挽回は難しいと判断した。それ以外の航空・宇宙・防衛事業と、産業システム・汎用機械事業の悪化分も、今後の挽回は難しいと判断したため、今回の通期業績予想で織り込むこととした。
2. 今回の業績予想修正で、悪材料出尽くしと理解してよいか？
 - ・ 悪材料は出し尽くしたが、コストが大きく増加することのないように、下期にリカバリープランを組んで実行している利益改善策をしっかりと成し遂げる。
3. 資源・エネルギー・環境事業は、通期の営業利益が130億円の予想であるが、上期が▲72億円であり、下期に200億円の営業利益を出せるのか？
 - ・ 粗利益ベースで200億円強の工事があるので、土台としてはある。また、販管費については固定費の削減というテーマで取り組んでいる。これに加えて、第1四半期で採算が悪化したものに対する利益改善をさらに上積みしていき、トータルで今期130億円の営業利益を目指していく。とはいえ、100%達成するのは難しいかもしれないということで、まだ20億円のリスクバッファを残している。
4. 北米で進行中のプロセスプラント案件の工事の進捗、およびコスト発生の見通しはどうか？
 - ・ 当社所掌の工事はほとんど完了しており、順次試運転のフェーズに入っている。No.1トレインは9月に商業運転を開始した。コストの大幅な増加は現時点ではないと考えている。我々の今後の大きな関心事項は、請負金の増額交渉である。完成の遅れは、当社所掌外の要因によるものと認識しており、これに関するコストが発生すれば、請求していく。
5. 航空・宇宙・防衛事業で、通期の営業利益予想を60億円下方修正したのは、民間エンジンの整備の稼働率が思ったより低く、固定費が賄えない状態が続くから、という意味合いでよいのか？
 - ・ 60億円下方修正した要因は複数あるが、一番大きなインパクトを与えているのは瑞穂工場の稼働率低下に伴う一時的な操業損である。
6. 不採算案件をクリアにして新たに進んでいくというのが「グループ経営方針2019」のメッセージだと理解している。株主に配当、自社株買いなどで報いるための、企業価値向上のリソースとして、保有不動産を充てるという考えはあるか？
 - ・ 今後3年間にわたり、事業ポートフォリオの組み換え等、様々な選択肢をもって、持続的な企業価値の向上を図っていく。株主への還元の方法についても検討していく。